

留女

志賀直哉

大正元年十二月二十九日印刷
大正二年一月一日發行

定價金壹圓

著者 志賀直哉

發行者 河本龜之助

印刷者 藤田千代吉

印刷所 千代田印刷所

製本所 齋藤製本所

不許
複製

發行所

洛陽堂

電話番町四二五八番
郵務東京二〇九一四番

東京市麹町區麹町二丁目二番地

東京市麹町區麹町二丁目二番地

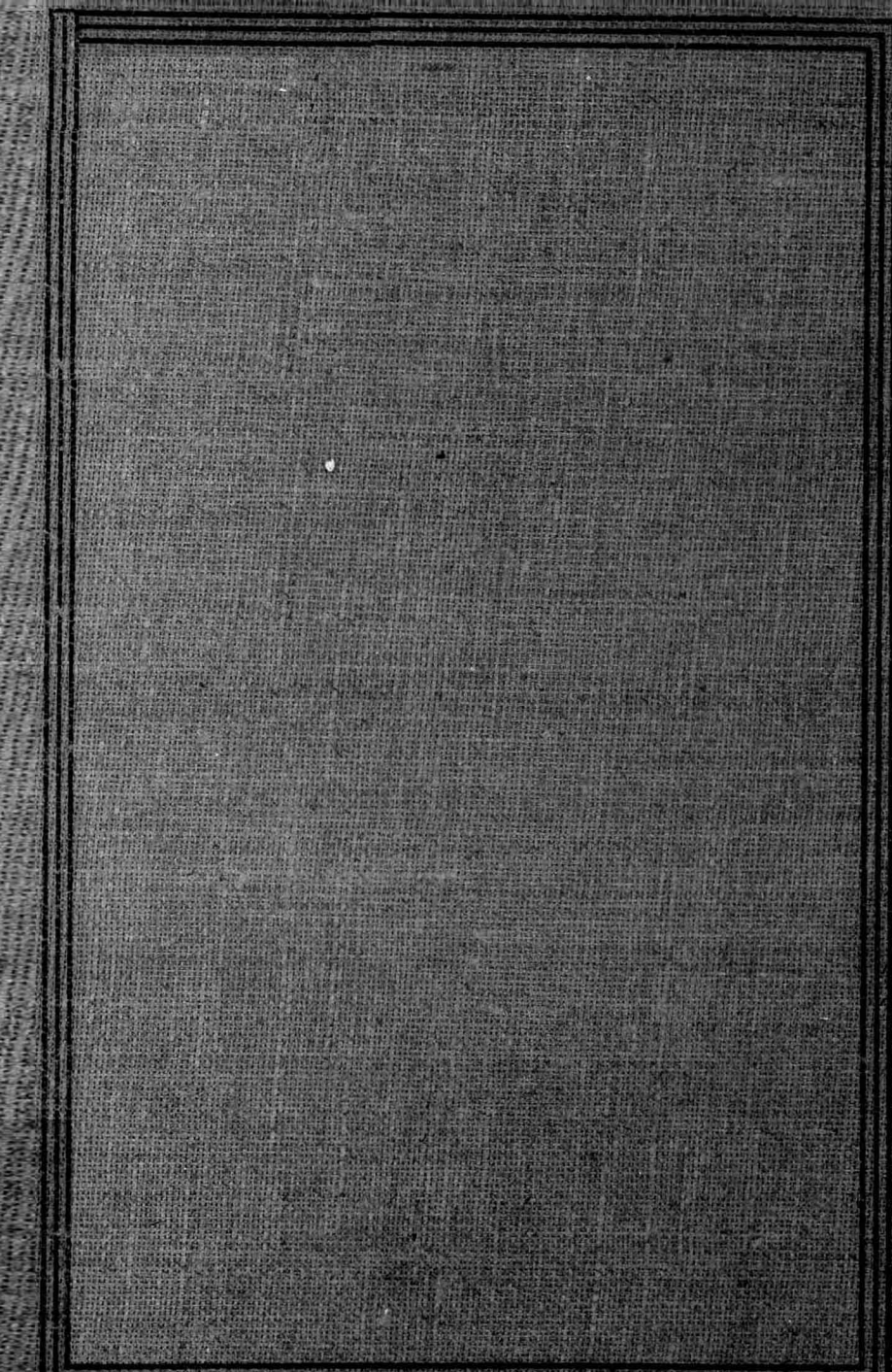
東京市麹町區麹町二丁目二番地

東京市麹町區麹町二丁目九番地

東京市京橋區元數寄屋町一丁目三番地

留女

志賀直哉



る

ゆ

志賀直哉著

留女

「祖母の爲に」他九篇
壹千九百十二年版

東京 洛陽堂發行

最初の著書を
祖母上に捧ぐ

目

祖母の爲に……………一五

鳥尾の病氣……………四一

剃刀……………六九

彼と六つ上の女……………九三

老人……………一一一

襖……………一二三

母の死と新しい母……………一四五

クロード・ディアスの日記……………一六九

正義派……………二一一

濁った頭……………二三一

次

祖母の爲に

四十四年十二月

祖母の爲に

總ての友達が自分に敵意を持つて居る——とかう思ひ込む事が私にはよくある。それが不健全な一時的の氣分からだとは知りながら、若し誰かを訪ねてもすれば屹度、恐迫されるやうに私は不快な事を云つたり仕たりして了ふ。堪えられない孤獨と腹立たしさを感じて別れて來る。と、必ず祖母を思ふ。

「何んと言つても、もう祖母だけだ」と思ふ。